# 1. はじめに

WindowsXP SP2 で、µEDX ソフトウェアを動作させるためには、本書に記載する設定が必要になります。

【WindowsXP SP2 インストールにより発生する問題】

WindowsXP SP2 をインストールされますと、 µEDX ソフトウェアにおいて3つの問題が発生します。

① µ EDX プログラムの起動時に、次のメッセージが表示され µ EDX 本体との通信ができなくなります。



②ヘルプ画面を表示する際に、次のようなメッセージが表示され一部機能が動作しなくなります。

🚈 メインメニュー - Microsof	t Internet Explorer
ファイル(E) 編集(E) 表	示(2) お気に入り(4) ツール(1) ヘルブ(1) 📲
😋 戻る 🔹 🕥 🕤 💌	💈 🕎 🎾 検索 🌟 お気に入り 🚱 😒 🌭 💽 🔹 🔜 🦓
アドレス(D) 🍯 C:¥microed	x¥help¥pm¥index.html 🔽 🔁 移動 リンク »
セキュリティ保護のため、ここを見ていた。 ンを表示するには、ここを見ていた。	コンピュータにアクセスできるアクティブ コンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています。オプショ × リリックしてください
SHIMADZU microEDX Software	
	【表示2
	概要
<u> メインメニュー</u>	「指華銀」、一
<u>分析</u>   冬件設定	
<u>データ処理</u>	ポップアップ ウィンドウや安全でない可能性のあるファイルのダウンロードが 定、オン
	Internet Explorer でブロックされると、情報パーで警告します。Web ページが正しく表示されない場合、ブラウザの上の部分に表示される情報パー
<u>装直モーダ</u>   メノテナンス	をに覧くたさい。
環境設定	□ 今後、このメッセージを表示しない(D) 日本 20 年間 - 12
<u> <del>×ッチノク</del></u>	唐報バーについての詳細を表示します。
<u>もどる</u>	
	ます。
	<u>衣風モーメ</u> 衣風の枕住の八///でモー≫しより。 メンテナンス 装置をマニュアルで制御します。
	<u> </u>
	また、装置エラー履歴表示などのユーティリティがあります
	マッチング 既存のデータのライブラリと、指定したデータを比較して、一いものから、順に表示する機能です。
	×1 /×−ユニル∩に動されると、「装面制御」と「分析」が自動的に起動します。   「分析」、「メンテナンス」、「装置モニタ」は、画面が表示されている間は、二重に起 -
🕠 ページが表示されました	אין דאינ איז

M 節笛しポート-fastal 1 - Microsoft Internet Evployer	וצור
	-
Rā Y ② Y 🗶 🙆 🎧 🔑 検索 🎌 お気に入り 🚱 🔯 Y 🛄 🖓 A	
アドレス(1) 🖉 C.¥microedx¥temp¥fastql_1.html 💽 🄁 移動 リン	り»
・ セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブ コンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています。オブションを表示するには、ここをクリックしてください…	×
簡単レポート	<b>^</b>
	,
[ <u>試料画像</u> ] [ <u>試料情報</u> ]	
and a state of the state of	
コメント : [Ti-U]コメント 分析グループ・FAST1	
情報パー	
情報バーにお気づきですか?	
ポップアップウィンドウや安全でない可能性のあるファイルのダウンロードが	
Internet Explorer (*フロックされると、情報パー・(*音音します。Web ページが正しく表示されない場合、ブラウザの上の部分に表示される情報パー	
をと覧いたさい。	
□ 今後、このメッセージを表示しない(D)	
<u> 「 情報/、 - についての 詳細を表示します… </u>	
↓	
[ <u>プロファイル</u> ]	
[cps/uA]	
1.50	
■ 100-4 ■ ■	

これらの問題を解決する手順を以下、順にご説明します。

#### 2. µEDX 本体との通信ができなくなる問題の回避方法

PC のファイアウォールの設定を無効にする

PC が置かれた職場の LAN がすでにファイアウォールに守られている場合に、個々の PC の WindowsXP ファイアウォール機能を無効にする場合です。

PCのファイアウォールの設定は有効にしながら例外の設定を行う

セキュリティを高めるために、PCのWindowsXPファイアウォール機能を有効にしながら、サービスを 行うプログラムごとに設定を行う場合です。

#### 2.1 ファイアウォールを設定しない場合

企業でご使用される場合、ほとんどの企業では、すでにファイアウォールが構築されているはずです。こう いう場面においては、基本的に Windows ファイアウォールを設定する必要はないものと考えます(Windows ファイアウォールは個人がルータなしで直接インターネット接続した場合の攻撃を防ぐためのものであり、 ルータが存在する場合は、ルータでファイアウォールを設定し、個々の PC でファイアウォールを設定する必 要はありません)。

そこで、ファイアウォールの設定を無効にし、WindowsXP SP2 による動作不良を回避します。以下は、その 手順です。

【ファイアウォールの設定を無効にする方法】

1) Administrator で Windows にログオンする。

2) スタートメニューから [設定] → [コントロールパネル] と操作し、コントロールパネルを表示させる。
 3) Windows ファイアウォールを開く。

(LUNA モードのときは、コントロールパネルをクラシック表示に切り替えてから Windows ファイアウォー ルを開いてください)

4) [全般]タブで「無効」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンを押す。

😹 Windows ファイアウォール 🔀
全般   例外   詳細設定
Windows ファイアウォールはコンピュータの保護に役立っています。
Windows ファイアウォールでは、承認されていないユーザーによるインターネットまたはネットワーク経由のアクセスを阻止することにより、コンピュータの保護に役立てます。
⑦ 有効 (推奨)(Q)
この設定では、「例外」 タブで選択されたものを除くすべての外部ソースからのこのコン ピュータへの接続をブロックします。
■ 例外を許可しない(D)
空港などのセキュリティの弱い場所で、パブリック ネットワークに接続する場合に 選択してください。プログラムが Windows ファイアウォールでブロックされても、 通 知はされません。 [例外] タブの選択は無視されます。
(推奨されません)(F)
この設定は避けてください。Windows ファイアウォールを無効にすると、このコンピュー タをウイルスや侵入者にさらす危険性が増す可能性があります。
Windows ファイアウォールで、ドメインの設定を使用しています。
<u>Windows ファイアウォールのその他の詳細</u> を表示します。
OK キャンセル

## 2.2 ファイアウォールを設定する場合

Windows ファイアウォールをご使用される場合は、WindowsXPのファイアウォールを設定するとともに、サービスを提供するプログラムごとに設定を行う必要があります。なお、Windows が提供するネットワークサービス機能(ファイル共有など)については、そのサービスを設定した時点で必要な設定を行いますので、標準的な機能については設定の必要性はありません。

【ファイアウォールを有効にしながら設定する方法】

- 1) Administrator でWindows にログオンする。
- 2) スタートメニューから [設定] → [コントロールパネル] と操作し、コントロールパネルを表示させる。
- 3) Windows ファイアウォールを開く。

(LUNA モードのときは、コントロールパネルをクラシック表示に切り替えてから Windows ファイアウォー ルを開いてください)

4) [全般]タブで「有効」のラジオボタンを選択し、「例外を許可しない」のチェックを外します。



5) [例外]タブで、プログラムおよびサービスに"MCMFC アプリケーション"があるか確認します。 あればチェックを入れた状態で[OK]ボタンを押し、Windows ファイアウォールを閉じます。

👹 Windows ファイアウォール	×
全般例外詳細設定	_
入力方向のネットワーク接続は、下で選択されたプログラムおよびサービスのためのものを除き、 Windows ファイアウォールでブロックされています。例外として追加することにより、プログラムによって は動作がよくなる場合もありますが、セキュリティの危険が増加する可能性があります。	
プログラムおよびサービス(P):	
名前	
<ul> <li>✓ MC MFC アフリケーション</li> <li>□ UPnP フレームワーク</li> <li>□ ファイルとプリンタの共有</li> <li>✓ リモート アシスタンス</li> <li>□ リモート デスクトップ</li> </ul>	
「プログラムの追加(R)」 (ポートの追加(Q) 編集(E) 削除(D)	
✓ Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時(ご通知を表示する(N)	
例外を許可することの危険の詳細を表示します。	
OK キャンセル	

なければ、以下の設定を行います。

6) [プログラムの追加]ボタンを押し、[参照]ボタンを押し、C:¥microedx¥bin¥mc. exe を追加します。

プログラムの追加 🛛 🔀
例外一覧に追加してプログラムとの通信を許可するには、プログラムを選択するか、一覧表 示されていないものについては [参照] をクリックして検索してください プログラム(P):
Acrobat Reader 5.1
MC.exe microEDX MSN Explorer Outlook Express PCMXF
Record Now DX パス: C¥microedx¥bin¥MC.exe 参照(B)
スコープの変更(C) OK キャンセル

7) "MC MFC アプリケーション"にチェックを入れた状態で、[OK]ボタンを押し、Windows ファイ アウォールを閉じます。

😺 Windows ファイアウォール	×
全般例外詳細設定	_
入力方向のネットワーク接続は、下で選択されたプログラムおよびサービスのためのものを除き、 Windows ファイアウォールでブロックされています。何外として追加することにより、プログラムによって は動作がよくなる場合もありますが、セキュリティの危険が増加する可能性があります。	
プログラムおよびサービス(P):	
名前	
<ul> <li>✓ MC MFC アフリケーション</li> <li>□ UPnP フレームワーク</li> <li>□ ファイルとプリンタの共有</li> <li>✓ リモート アシスタンス</li> <li>□ リモート デスクトップ</li> </ul>	
「プログラムの追加(R)…」 (ボートの追加(Q)…) 編集(E)… 前除(Q)	
✓ Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時(に通知を表示する(N)	
例外を許可することの危険の詳細を表示します。	
OK キャンセル	

### 3. ヘルプ画面、簡単レポート画面にて一部機能が動作しなくなる問題の回避方法

インターネットエクスプローラの詳細設定を変更する。

手順は次のとおりです。

- 1. インターネットエクスプローラの「ツール」メニューから、「インターネットオプション」を選びます。
- 2. 詳細設定タブを選択し、セキュリティの中の「マイコンピュータのファイルでのアクティブコンテンツの 実行を許可する」 についてチェックを入れ、「OK」をクリックします。

インターネット オブション 🔹 💈
全般   セキュリティ   プライバシー   コンテンツ   接続   プログラム   詳細設定
して 設定(S):
<ul> <li>▲ ビキュリティ</li> <li>▲ SSL 20 を使用する</li> <li>▲ SSL 20 を使用する</li> <li>▲ SSL 30 を使用する</li> <li>□ TLS 10 を使用する</li> <li>□ サーバー証明書の取り消しを確認する(再起動が必要)</li> <li>④ ダウンロードしたプログラムの署名を確認する</li> <li>④ ブラウザを閉じたとき、[Temporary Internet Files] フォルダを空にする</li> <li>④ プロファイル アシスタントを使用する</li> <li>□ マイ コンピュータでの、CD のアクティブ コンテンツの実行を許可する</li> <li>□ マイ コンピュータでの、CD のアクティブ コンテンツの実行を許可する</li> <li>□ 暗号化されたページをディスクに保存しない</li> <li>□ 署名が無効でもソフトウェアの実行またはインストールを許可する</li> <li>④ 統合 Windows 認証を使用する(再起動が必要)</li> <li>④ 発行元証明書の取り消しを確認する</li> <li>▶ 保護付き/保護なしのサイト間を移動する場合に整告する</li> </ul>

以上。